

# ノシメトンボ

*Sympetrum frequens*

トンボ科



ノシメトンボ

## 名前の由来

腹部の黒い斑紋を熨斗目(のしめ)模様に見たてたことに由来する(→興味深い話の項参照)。「トンボ」については、東北地方でトンボのことを「ダンブリ」「ドンブ」といい、「ドンバ」→「トンバウ」→「トンバ」→「トンボ」となったのでは、という説がある。また「飛ぶ棒」が変化したという説もあるが、「棒」が漢語であり、古代日本語としては不適切との指摘がある。漢字名：熨斗目蜻蛉

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類  
ワシ・タカ

## 形態的特徴

体長42~49mm。翅の先端が褐色で、胸部に3本の黒線があるように見える。

類似種と見分け方：コノシメトンボ、マユタテアカネ(メスの羽先端が黒いタイプ)。

胸部の模様と腹部の色の違いで区別できる。

## 生息環境・分布

平地から低山地の池沼に生息している。

分布：ウスリー、中国東北部・中部、朝鮮半島に分布。国内分布は、九州以北。北海道内では、全域に分布。十勝地

方では、平地から低山地の池沼に普通に生息している。帯広市、浦幌町、音更町、幕別町、新得町、豊頃町、大樹町などで確認されている。

## 食性・他生物との関わり

幼虫時期はユスリカやイトミミズ、魚の稚魚、オタマジャクシなどの水中の小動物。成虫になるとカやハエなどの昆虫類を捕食する。

幼虫は魚類やカエルなどに捕食され、成虫はアブなどの肉食性昆虫やクモ類、カエル類、大型のトンボ類、チゴハサブサなど小型猛禽類やタンチョウなどの鳥類に捕食される。

## 繁殖生態・寿命

卵で越冬し、成虫は6月上旬から10月中旬に見られる。産卵は連結したままで、抽水植物のある水域の植物の上を飛

びながら空中で撒き散らすように行われる。

寿命：幼虫期間約7ヶ月、成虫期間1~2ヶ月。

## 興味深い話

■十勝地方で最も普通に見られる赤トンボの1種である。羽の先端が黒いトンボはほとんどがノシメトンボであり、類似している2種は少ない。

で、仕立てあがったときに、腰の部分にだけ縞が現れるもののことである。

■名前の由来である熨斗目(のしめ)とは武家の礼服用織物

■十勝地方のアイヌ語で、トンボ類を「ハंकカチュイ」という。

## 配慮事項

他のトンボ類と同様に、池や沼の中に水草が生えていることが大事。羽化するときに水草に登って羽化する。池や沼

の周辺に樹木や草原があることも大事。羽化後の成虫の採餌場と休息場となる。

## 生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
卵期・幼虫期												
成虫期												

## 参考文献

「蝦夷の蜻蛉」 広瀬良宏・伊藤智 自費出版 1993  
「北海道のトンボ」 二橋愛次郎 エコネットワーク 2002  
「日本産トンボ幼虫・成虫検索図説」 石田昇三・石田勝義・杉村光俊 東海大学出版会 1988  
「講談社カラー科学大図鑑 トンボ」 枝重夫 講談社 1982  
「日本産トンボ大図鑑」 浜田康・井上清 講談社 1985

「トンボのすべて」 井上清・谷幸三 トンボ出版 1999  
「カラー日本のトンボ」 石田昇三・浜田康 山と溪谷社 1973  
「名前といわれ 昆虫図鑑」 栗林慧・大谷剛 偕成社 1987  
「コタン生物記Ⅲ 野鳥・水鳥・昆虫篇」 更科源蔵・更科光、法政大学出版局 1977